

○ 本校の概要

- 児童数779名、25学級で、特別支援教室拠点校である。学区内には7町会あり、学校に対して非常に協力的で地域力が高い。
- PTA活動、お父さんの会、同意会活動が非常に盛んで児童の健全育成にすんで関わっている。令和元年度に開校80周年事業を成功させ、「チーム馬三」としての連携がさらにすすんでいる。
- 学習場面では、一人一人が自らの考えをもって言語活動を通して交流する過程を重視し、主体的に学びに向かう力の育成を図っている。
- 縦割り班を活用した児童会、なかよし給食、なかよし遊び等の異学年交流を通して、集団における人間関係形成力の向上を図っている。
- 運動大好き馬三の子を目指して、「馬三元アツタイム」等を計画的に行い、体力向上に努めている。
- 今年度から本校に学校運営協議会が設置され、大田区コミュニティ・スクールとして、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを進めていく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		児童向けに行うアンケートで「勉強が好き」と回答した児童の割合 (令和3年度の割合は83.2%、令和2年度の割合は84.9%)	4:88%以上		A	
		理論的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。			3:84%以上88%未満		B	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。			2:80%以上84%未満		C	
		他の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。			1:80%未満		D	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。						
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「学校は学習内容を身に付けさせている」の項目の回答でのA評価(4段階で最上位)の割合 (令和3年度の割合は48.9%、令和2年度の割合は45.9%)	4:49%以上		A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期毎に知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。			3:45%以上49%未満		B	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。			2:40%以上45%未満		C	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。			1:40%未満		D	
		東京ベーンクドリル(算数)を活用し、基礎基本の定着を図る。	4:全教員が活用した。 3:90%以上の教員が活用した。 2:80%以上の教員が活用した。 1:活用した教員が80%以下であった。						
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「お父さんは、楽しく学校生活を送っている」の項目の回答での肯定的評価(4段階でA・B評価の合計)の割合 (令和3年度の割合は95.4%、令和2年度の割合は96.6%)	4:96%以上		A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。			3:93%以上96%未満		B	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			2:90%以上93%未満		C	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			1:90%未満		D	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。						
プラン4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		児童向けに行うアンケートで「運動が好き」と回答した児童の割合 (令和3年度の割合は90.0%、令和2年度の割合は91.5%)	4:93%以上		A	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			3:90%以上93%未満		B	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			2:85%以上90%未満		C	
		児童の健康・体力向上に向けての取組を組織的に行う。	4:学期1回以上行った。 3:年2回行った。 2:年1回行った。 1:実施しなかった。			1:85%未満		D	
		授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。						
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。		保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「学校は一人一人のことを考え、一生懸命指導している」の項目の回答での肯定的評価(4段階でA・B評価の合計)の割合 (令和3年度の割合は91.0%、令和2年度の割合は93.2%)	4:93%以上		A	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			3:90%以上93%未満		B	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。			2:85%以上90%未満		C	
		ユニバーサルデザインの視点で教室環境を整える。	4:全教員が取り組んだ。 3:90%以上の教員が取り組んだ。 2:80%以上の教員が取り組んだ。 1:取り組んだ教員が80%以下であった。			1:85%未満		D	
		教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。						
プラン6 なごうな学校づくり	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出します。	学校運営協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。		保護者向けに行う「本校の教育に関するアンケート」における「自分は学校の教育活動に協力している」の項目の回答での肯定的評価(4段階でA・B評価の合計)の割合 (令和3年度の割合は85.8%、令和2年度の割合は84.3%)	4:87%以上		A	
		地域学校協働本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。			3:82%以上87%未満		B	
		家庭学習の習慣が身に付くように、家庭への啓発を行う。	4:年度間に3回以上行った。 3:年度間に2回行った。 2:年度間に1回行った。 1:実施しなかった。			2:77%以上82%未満		C	
		学校運営協議会を開き、地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。	4:「おおむねできた」と全委員が回答した。 3:80%以上の委員が回答した。 2:60%以上の委員が回答した。 1:60%未満であった。			1:77%未満		D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。